

2002

創立40周年に寄せて

創設当時の仮校舎や寮生達のエピソード集

第5代同窓会長 1M 中尾 義博

思い起こせば、我々一期生は40年前（1962' 昭和37年）15歳で旭川高専に入学しました。早いもので卒業してから36年目、私達は56歳になりました。この機会につれづれなるままに、昔を振り返ってみたいと思います。

昭和36年の夏頃から、国立高専が旭川に設立か？という報道がされるようになり、当時の前野市長さんと川田助役さんが文部省に陳情され秋頃正式に決定しました。旭川市民は大いに喜びそして『道新』には、「この前の市長さんと変わった助役さんコンビによる快挙である」とユーモアを込めて報じられたのを記憶しております。国立高専一期校として全国に12校（現在国立54校、公私立8校）北海道は函館と2校に決まりました。私事になりますが、当時六合中学3年の私は北高そして北大を考えていましたが、幼くして両親を亡くしており親戚を転々としておりましたので、経済面と何よりも全寮制に惹かれて「何としても入らなければ、生きられない」と思いました。六合中からも50人位、旭川はもとより全道から3400余名程集まり、28倍位で全国で3番目の競争率という報道がありました。さて原田準平初代校長は地球物理学者として大変有名な方であり、また教務主事の大和田望雄先生のお父さんは、あの鉄道唱歌「汽笛一声新橋を、、、」の作詞者と聞いています。つい最近までおられた物理の名誉教授中村敏明先生は一番若い先生で、16歳の我々には大人に見えましたが、当時24～25歳だと思うと不思議でなりません。

仮校舎ですが当時、春光町1区1条にあり現在の大成建設が1900年に建て、第七師団歩兵第27連隊の兵舎であり、当時少し立派すぎるのではと言われたそうです。この27連隊は、日露戦争の天王山ともいえる厳寒の203高地において孤軍奮闘し、あの乃木將軍を泣かせたと作家の司馬遼太郎の小説にいくつか紹介されております。この頃の建物に北鎮小の近くにある今の『井上靖記念館』は、昔「偕行社」といって歴代の天皇陛下が行幸の折宿泊された迎賓館であります。このお化け屋敷のような仮校舎に1階は寮として9号室、2階は機械2電気1の教室と自習室があり、教官室、事務所、食堂、便所は別棟にありました。ぼつんとある別棟の深夜のトイレは、とても怖かったですね。

それでは、時代は多少前後しますがエピソードを幾つか紹介しましょう。

1. 『犬の根性』学校ができて2年目、仮校舎の寮から1年生と少数の2年生が、そこから春光台の新校舎に通っていたときの事です。スキー場の下によく吠える犬がいました。下校途中の数名の一期生が、その犬を飼っている家の前を通りかかると、律儀なその犬は、待ってましたとばかりにさっそく吠え出しました。いつもなら、生真面目な一期生はそそくさとそこを立ち去って寮に戻り、勉強に励むところですが、その日は違いました。せっかく頑張っけて吠えてくれる使命感に燃えた犬のために、「はたして、どれだけ吠えられるものなのか、その根性を確かめてみよう」と、テストすることになったのです。（繋

がれている) 犬の前に立ち尽くすこと 15 分。犬は元気よく吠えています。20 分、やや声のトーンが低くなってきました。25 分、だいぶテンポが落ち、声がややかすれてきたので、石を近くに投げました。反射的に再び元気に吠え出しました。30 分、また勢いが無くなってきたので石を投げ…。45 分を過ぎると、さすがの犬もおとなしくなりました。声はかすれ、体力を使い果して、ただ水を飲んでいるだけです。石を投げても、恨めしそうにこちらを一瞥するだけです。「人の噂も 75 日」をフォローする「犬は吠えても 45 分」という見事な結果を得た貴重な実験でした。実験の参加者は、村上孝志・橋本郁雄・三浦敏章・椿原憲三・中村正人・高梨博義といったところだったと思います。

2. 『旭函戦』 昨年は北海道で初めて「専体連」で野球部が全国優勝するという記念すべき快挙がありましたが、実はこの「専体連」の発祥は昭和 39 年夏の函館高専との「旭函戦」というスポーツ競技の対抗戦だったのです。特に、旭川駅で函館高専の「イカ野郎ども」を迎え、平和通り（現在の買物公園）を昔ながらの紋付き袴、高下駄、ひげ面のバンカラ応援団員達が市役所広場まで導き、そこで「やーやーやー」と源平さながらに両校の応援団同士が派手に交換した様子は当時の新聞にも大きく紹介されました。旭川の一般市民も何事かと大勢集まり話題になったと記憶しています。その時の応援団長は、学生会長であり「柔道部」「エレキギター部」のリーダーでもあった 1 期の中村正人でした。副団長は 2 期の浅利茂で「エレキギター部」「ラグビー部」の創部にかかわりました。

3. 『エントツ男』 昭和 38 年夏、春光台に新校舎と明誠寮が出来たばかりの頃、ある日曜の朝、原田準平校長は自宅の窓から自慢の高級双眼鏡でバードウォッチングを楽しんでおられました。すると早朝からボイラーのエントツの中程に人が動いているのが見えました。初めは工事の職人と思いましたが、よく見ると 1 期生の寮生であり騒ぎとなりました。

4. 『オバQ野郎』 この頃皆が金欠病でしたが、ある時「K君」が寮生に『俺今度の日曜の昼に平和通り（買物公園）を臭いシーツを頭からかぶり端から端まで歩くから百円賭けよう』と言うことで、何人かが街角に検査役として立ち見事に賭は、成功しました。

5. 『文通相手仲介業』 一期生の入学早々、旺文社「高校時代」の文通求む欄に出した奴がいて、北海道でかつ「ア」行の旭川と言うことでトップに載り、「高専」の物珍しさもあり何百通も届きました。写真入りは美人度により 1000 円から 100 円まであり男性からののは無料でした。ちなみに奴は、その中の一人と結婚し幸せな家庭を持っています。

6. 『寝言の D 君』 あの頃、よくお菓子やリンゴや下着など実家から差し入れがあり、同室者達と山分けする者、フトンの中でコッソリ一人占めする奴などいろいろでした。ある時「D 君」の親から差し入れがありその中に上等な下駄がありました。同室の「U 君」がその下駄を借りて散歩に出かけ、夕方事もあろうに下駄の歯をポッキリ折って帰ってきました。申し訳なさそうに謝ると「D 君」は、「イイよ、イイよ」と許してくれました。早寝早起きの「D 君」先に寝てしまいました。そのうち寝言が始まり皆が周りで聞いていると「チクショウ、チクショウ俺がまだ履いていないのに、、、」。これには「U 君」ビック

り、これ以後彼は『寝言のD君』と呼ばれるようになりました。

7. 有名人としては、玉置浩二率いる『安全地帯』のベースマンとして活躍した六土開正（10期化学）や三浦和義のロス疑惑事件に巻き込まれマスコミをにぎわした元 JAL パーサー福原光治（7期機械）は、現在東京の恵比寿駅周辺にレストランや飲食店多数を立派に経営しております。

あの頃はキューバ危機、東京オリンピック、ケネディ米大統領暗殺、ビートルズ来日などがありました。学生達と教職員が、一体となってグラウンドの石ころやガラスを拾ったり、学校や寮の運営や規則を練り上げたり、いろいろな運動部や文科系のクラブを文字どおりゼロから立ち上げたものです。我々から見れば今の学生諸君は、広大な校舎や最新鋭の設備が整った環境で誠に羨ましい限りです。何もかもゼロからの出発でしたが、どこかしら、のどかで遊び心と茶目っ気と、土壇場一発勝負の集中力が皆の取り柄だった様な気がしてなりません。

我々はどんなに時代が変わっても母校の存在があったればこそ、今の自分があるのだと自覚しつつ、今後更なる旭川高専の発展を念願しております。まさに母校は不滅です。